

1 【活動の趣旨】

地域の方を指導者として学習に迎え入れたり、直接地域に出かけ様々な場所や自然、人と触れ合ったりすることを通して、地域に親しみ愛着を深めることをめざす。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「学校ボランティア始動」 (全校)

本年度より、地域の方々や保護者に呼びかけ登録制の学校ボランティアを始動させた。校内での学校行事や学習のサポート、校区内での校外学習の見守りなど、都合のつくときに気軽に参加いただくことをコンセプトに実施している。高学年の家庭科「裁縫やミシンの扱い」、地域の公園への自然観察、学校の花壇の整備等にもご尽力いただいた。



【家庭科 ミシンの補助】

(2) 立命館大学との交流 (全校)

「立命館大学 BKC 地域連携課」にご協力いただき、1年生から5年生は、学生に小学校に来ていただき、ダンスや紙飛行機製作、科学実験や天体学習等を体験させていただいた。6年生は、大学キャンパスに行き、大学内の施設等の見学や交流をさせていただいた。

3 【実施に当たっての工夫】 (学校ボランティア実施についての工夫・対応等)

最初のオリエンテーションの際に、本校ボランティアのコンセプトや留意事項を伝えた。気軽に参加いただける雰囲気作りを常に意識している。地域コーディネーターを窓口に、地域の学校ボランティアの方々に活動案内のプリントを配布し、参加希望者を募った。また、保護者のボランティアの方々には、児童を通じて活動内容を知らせた。民生児童委員の方々の参加もあり、代表者を通じて活動内容を知らせた。

4 【事業の成果】

学校ボランティアの協力によって、児童の学習活動が充実したり、安全に実施できる手助けになったりと成果が大きかった。また、学校の環境美化にもつながった。

立命館大学との交流については、学年のニーズに合った内容で、年齢が近い学生に教えていただいたり、触れ合ったりすることは、児童が物事に興味を持つ良い経験の場となった。大学キャンパス見学も6年生児童にとっては有意義な時間となった。

5 【事業実施上の課題】

地域の方と学校との話し合いの中で、互いの思いや意図をしっかりと確認して実践することが大切である。また、学校ボランティアのこれからの継続した取り組みについても、意見を交わしていく必要がある。